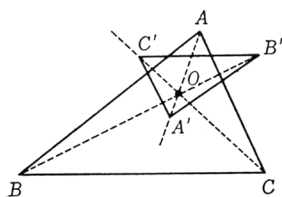
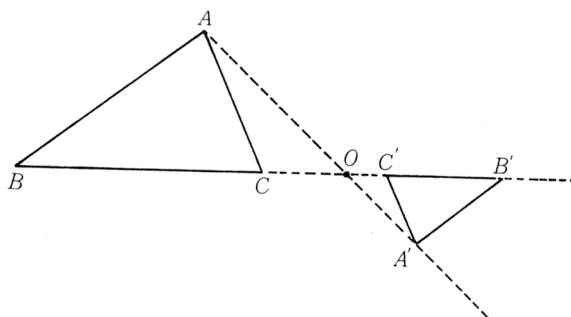


※ 相似の中心と各頂点を結んだ線分の延長上に対応点をとる場合

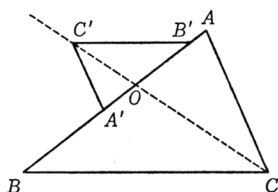
① 点Oが内部にあるとき



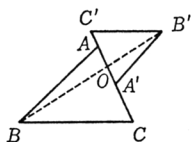
⑤ 点Oが辺の延長上にあるとき



② 点Oが辺上にあるとき

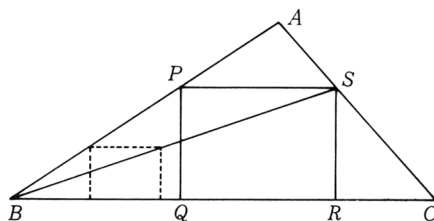


がでてくるものです。教科書を教えることは誰もが
 ができるが、教科書で教えることの難しさはこ
 んなことをさしているといえよう。

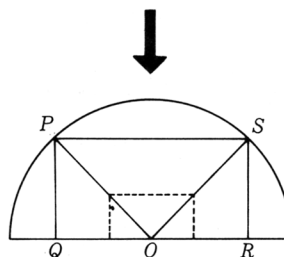


〔例〕 相似法の統一的なとらえ方

③ 点Oが頂点にあるとき (①の図)



④ 点Oが外部にあるとき (⑤の図)



以上のようなすべての場合を教師が把握した上で教科書に記されている図をみると、教科書の図そのものを理解するのにせいっぱいの教師とでは、生徒が拡大・縮小を統一的にみられるかどうかで大きな差異がでてくるものです。

また、このように統合した見方ができることは、次のような相似法への発展のさせ方にも当然違い